

農林水産業みらい基金



特集1のドローン・アプリの開発プロジェクトのように、農林水産業みらい基金では、直面する課題解決に挑戦する創意工夫にあふれた取り組みを支援しています。“あと一步の後押し”が必要な地域の農林水産業者を支援することで、農林水産業と食と地域のくらしの発展への貢献を目指しています。

●みらい基金とはどのような組織ですか？

農林水産業みらい基金（みらい基金）は、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）グループの一員である農林中央金庫が200億円の基金拠出を行い、2014年3月に設立されました。農林水産業と食と地域のくらしを支える「農林水産業みらいプロジェクト」を展開しています。

●みらい基金の目的は？

農林水産業の「持続的発展を支える担い手」と「収益基盤強化に向けた取り組み」、農林水産業を軸にした「地域活性化に向けた取り組み」の支援を目的としています。

●助成の審査方法は？

みらい基金は、非営利型の一般社団法人として、利益を追求せず「公平公正」という立場を強く意識しています。実際に資金を援助する助成先の選定にあたっては、完全な一般公募を行い、全国から一斉に申請を受け付けています。ガバナンスの効いた運営により、客観性を担保しつつ、特定の個人や団体に偏らない中立・公平公正の立場から助成先の選定・審査が行われています。

●助成の審査委員は？

助成対象となる事業は、外部有識者（大学教授・准教授、弁護士、公認会計士、シンクタンク研究者、第一次産業関係団体の代表など）によって構成される「事業運営委員会」で審査されます。審査は、提出した書類に基づく審議と現地実査によって行われず、委員会での審査を経て、理事会で決定されます。

●助成先の選定基準は？

みらい基金では、助成対象の取り組みを選定する際、以下の5つの視点を重視しています。

- ① 地域の課題解決に向けて、自発的に挑戦している取り組みであり、他への波及効果も期待できること
- ② 担い手の熱意に支えられた、創意工夫と独自性にあふれる取り組みであること
- ③ 地域の担い手が行政などと幅広く協力しながら、新たな担い手の育成や雇用の創出などを実現し、それによって地域の持続的発展に貢献できること
- ④ 取り組みがしっかりとした管理体制の下で、事業として長く持続可能なものであること
- ⑤ 取り組みにとって克服すべき課題が明確であり、支援がこの課題解決に向けていま一步の後押しにつながること

●みらい基金による社会へのインパクトは？

みらい基金の助成は、地域で直面する課題解決に挑戦する事業に活用されますが、その事業にかける関係者の熱意や取り組みの成果については、同じような課題を抱える他の地域や産業へと広く波及していくことが期待されています。また、実際に、こうした広がりが見られています。

●みらい基金への応募方法は？

毎年、6月頃にみらい基金の申請期間が始まります。募集要項は、下記サイトから入手することができます。

- ・みらい基金ウェブサイト <http://www.miraikikin.org>
- ・問い合わせ先電話番号：03-5362-3889
(土日祝を除く9:00～17:00)
- ・問い合わせ先e-mail：sinsei@miraikikin.org

●助成実績は？

2014年度から2017年度までに、助成対象事業32件、助成総額30億7,156万円を決定しています。2017年度の助成先はP.15のとおりです。

また、2018年度については、90件のご応募をいただき、助成対象事業5件、助成総額7億4,422万円を決定しました。助成先はP.16のとおりです。

※申請額ベースの金額であり、実際の助成金額と異なる場合があります。

農林水産業みらい基金 2017年度助成先 (9件)

農業生産法人有限会社
伊盛牧場(沖縄県)



島の未来を、
耕そう。

草地再生プロジェクト

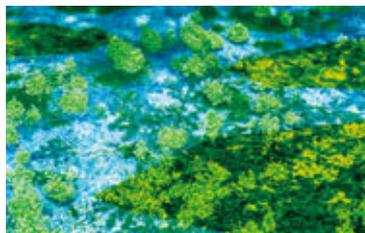
認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク(岩手県)



ありのままがいい。
旅も、人も。

インバウンドの流れを東北へ、
被災地へ！！

ネットワーク大津株式会社
(熊本県)



地下水都市を
守る田んぼ。

水田や集落を守る大規模営農法人による
自給飼料活用型TMR飼料供給
プロジェクト

株式会社浄法寺漆産業
(岩手県)



テクノロジーで、
国産漆を取り戻せ。

1000年後の未来へ繋げる、
漆採取のイノベーションによる
漆生産の効率化

登米町森林組合(宮城県)



生まれた森が、
見える木材。

山がみえるサプライチェーンマネジ
メント・プラットフォームの構築
～東日本大震災からの創造的再興～

松阪飯南森林組合(三重県)



小さなきのこが
この山を動かす。

地域雇用拡大に向けた原木、
菌床きのこ一貫生産システムの構築

一般社団法人浦戸夢の愛ランド
(宮城県)



島のあとつぎを、
牡蠣でふやすんだ。

ふるさと愛ランド
～牡蠣養殖の後継者育成～

株式会社フィッシュパス※
(福井県)



日本の川釣りを、
アプリで変えていきたい。

川釣りの定番、遊漁券オンライン
アプリ『FISHPASS』

※2017年12月に社名を(株)オクターから変更

有限会社土佐佐賀産直
出荷組合(高知県)



あたしらの知恵で、
漁師町を何とかするちや。

「つくる・つながる・つたえる」
資源活用モデル事業

農林水産業みらい基金 2018年度 助成先一覧 (5件)

農業	十勝農業協同組合連合会	北海道	農業情報のAI解析による「生産者高度支援システム」の開発事業
農業	萩アグリ株式会社	山口県	“萩市東部地域”みらい活性化プロジェクト
農業	美瑛町農業協同組合	北海道	気象センサーのメッシュ配置による農業生産性向上事業
林業	一般社団法人 天川村フォレストパワー協議会	奈良県	木の恵みと生きる陀羅尼助の郷、天川村の豊かな未来
水産業	魚津漁業協同組合	富山県	地域力で構築する広域的連携による自立型セーフティネット

2018年度の助成対象事業1件あたりの最大助成額は3億1,121万円、最小助成額は1,728万円です。

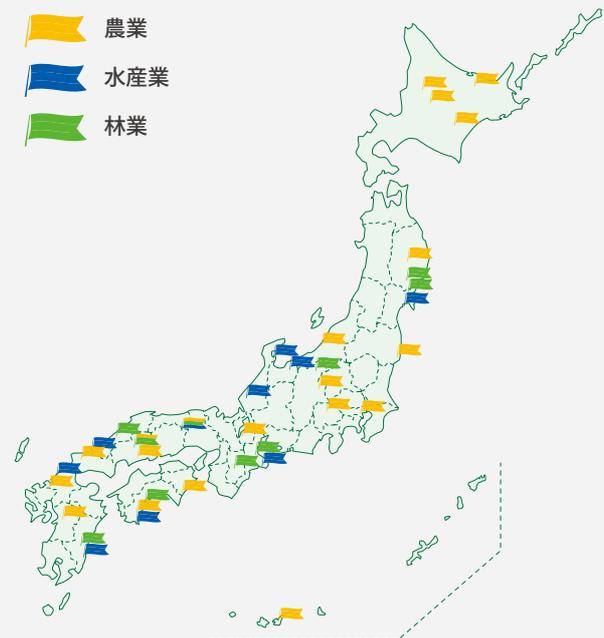
※申請額ベースの金額であり、実際の助成金額と異なる場合があります。

農林水産業みらい基金 助成対象事業件数・助成金額



※申請額ベースの金額であり、実際の助成金額と異なる場合があります。

農林水産業みらい基金 助成先



JAとは

JAとは、相互扶助の精神のもとに農家の営農と生活を守り高め、よりよい社会を築くことを目的に組織された協同組合です。この目的のために、JAは営農や生活の指導をするほか、生産資材・生活資材の共同購入や農畜産物の共同販売、貯金の受け入れ、農業生産資金や生活資金の貸し付け、農業生産や生活に必要な共同利用施設の設置、あるいは万一の場合に備える共済等の事業や活動を行っています。

信連とは

JA系統信用事業の都道府県段階の連合会組織です。JAの事業運営をサポートする県域機能を発揮するとともに、地域金融機関としてJAと連携して金融サービスを提供することにより、JAと一体となって地域の皆さまに金融サービスを提供しています。

農林中央金庫とは

農業協同組合 (JA)、漁業協同組合 (JF)、森林組合 (森組) 等の出資による協同組織の全国金融機関です。協同組織のために金融の円滑化を図ることにより、農林水産業や国民経済の発展に貢献することを目的としています。



JAバンクは全国に民間最大級の店舗網を展開しているJAバンク会員 (JA・信連・農林中金) で構成するグループの名称です。

NEWS LETTERについてのお問い合わせは

農林中央金庫

〒100-8420 東京都千代田区有楽町1-13-2 広報CSR企画室
TEL: 03-5222-2017